

日本機械学会誌
(**メカライフ**)
執筆要綱

原稿執筆にあたってのお願い

[原稿送付先・執筆問合せ先]

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地
信濃町煉瓦館5階

社団法人 日本機械学会
会誌編修部会
(メカライフ編修委員会)

TEL (03) 5360-3500 (代表)
(03) 5360-3501 (会誌編修部会担当)
FAX (03) 5360-3508

社団法人 日本機械学会

日本機械学会は、“機械に関する学術、技術の進歩、発達をはかり、かつ工業の発展のためにつくすことを目的”として、1897年(明治30年)に創立され、現在、会員40,000名を擁する国内でも有数の学術団体です。そして、その英語名

“*THE JAPAN SOCIETY OF MECHANICAL ENGINEERS*”
が示すように、機械技術者の会です。

したがって各会員は、自己の専門とする分野はもちろん、境界領域、他領域の分野についても、活発に学際的討論を行うことにより、新たな知の領域、先端知識を拡げつつ、交流を高めています。

また会員構成も、全国各地の企業(約70%)、大学・高専・短大(約25%)、官公庁研究機関(約5%)と多岐にわたり、産・学・官協同の場として、さまざまな技術交流、情報交換による豊かな結実を見せています。さらに若い学生から、経験豊かな企業の技術者、大学・研究所等の研究者、各分野の第一人者に至るまで、年齢層も厚く、多彩な人材にあふれた同志の集まりとして、常に時代を先取りする総合的技術者の集団であるといえます。

21世紀に入った今、機械工学の基礎分野およびメカトロニクスをはじめ、新エネルギー、環境、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、新素材といった広範な新分野は、ますます産業・経済の基盤として重要視されています。これらの技術への取り組みには、新しい時代の流れを鋭敏に感じ取り、社会のニーズに応える豊かな感性、知のエネルギーが必要となってきます。その意味で、機械に関するあらゆる学際分野の人々の『人間としての広い出会いの場』である本会の存立意義は、今後ともいよいよ大きく未来に向けて可能性を拡げるものと確信します。

日本機械学会誌

【会誌編修部会：1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11月号を担当】

日本機械学会の理念として、すべての産業の基礎である機械工学および関連分野を研究、応用する人々の集まりである学会として、広く他分野の人も好んで入会する学会を目指すような編集方針で会誌を発行しています。

会誌の主題目記事は、機械工学および機械工業に関連する、共通基盤技術に関する記事、学際、境界領域に関する記事、最先端のトピックス記事、等を主体としています。

この会誌は、本会全会員（企業約70%、大学・官公庁研究機関約30%）に配布され、研究を行う上で多いに参考になる機関誌です。

【メカライフ編修委員会：3, 6, 9, 12月号を担当】

（メカライフ誌）

メカライフ誌は機械系学生（学部・大学院）がこれを読み、見ることによって、機械工学および関連分野に関する新知識を得て、かつ豊かな知識教養を身につけ、その専門の技術を社会の進歩発展に役立てるようになることを目的として編集をしています。

また、記事内容は学生向けということもありますが、この会誌自体は本会全会員（約40,000名、印刷部数50,000部）に配布されますのでPR効果は大きく、学生以外の読者からも、内容の理解さ、おもしろさ等々非常に好評をいただいております。

他の出版事業

= 専門分野の情報誌 =

『日本機械学会論文集』（月刊）

本会論文集は、会員の原著で他の刊行物に未発表の論文を掲載して、毎月、専門分野別に分けて3シリーズを発行し、さまざまな分野から深い関心と高い評価を受けています。

= 国際情報誌 =

『英文ジャーナル』（電子版）

技術・学術情報交流のグローバル化や機械工学分野の学術活動の多様化、速報性に適切に対応するために、本会が発行していましたが JSME International Journal は本会部門独自の編集・運営による電子版としての英文ジャーナル（閲覧は無料）に移行いたしました。これによって、本会各部門の編修委員会では、電子媒体上に構築されたシステムを利用して論文の投稿、審査および発行までを行うことになりました。

電子化されたジャーナルが国際誌として相応しい内容となり、インパクトファクター、サーキュレーションの向上、更には発行経費の削減等が期待でき、有力な国際誌に発展することを確信しています。

詳細は <http://www.i-product.biz/jsme/> をご参照ください。

= 機械工学に関する図書の出版 =

1934年に初版発行以来、半世紀以上にわたり日本の機械技術者の必携書となっている機械工学便覧（合本・分冊）をはじめ、機械実用便覧、シリーズ書、技術・統計資料、学会基準・規格等を独自の委員会組織による入念な内容検討に基づいて編集・出版をしております。

また、民間の出版社に出版を委託した図書はすでに200点以上にもなっております。

その他

集会事業（国内会議・国際会議）、調査研究事業、国際交流事業、学会賞事業、センター事業等々を行っております。

メカライフ について

- 〔 1 〕 発行目的 メカライフは機械系学生がこれを読み、見ることによって、機械工学および関連分野に関する新知識を得て、学会活動のイメージを新たにし、また近い将来、学会においてその活動の中心的役割を演じるように期待すると共に、あわせて未加入の機械系学生に対して配布回覧して、学会のPR活動の一環として利用することを目的とする。
- 〔 2 〕 内 容 メカライフは機械系学生が、豊かな知識・教養を身につけ、その専門の技術を社会の進歩発展に役立てるようになることを目的として、その内容は次の六つの柱からなる。
- （ 1 ） 夢と教養
 - （ 2 ） 新知識
 - （ 3 ） 交流（学生間の情報交換の場）
 - （ 4 ） 企業情報（企業と学生の情報交換の場）
 - （ 5 ） 学生欄（本会の学生会活動の報告・行事報告）
 - （ 6 ） 会告（本会の行事案内）
- 〔 3 〕 配布先 （ 1 ） 全会員。
- （ 2 ） PRとして機械系学生にも関係者（主任教授等）から配布する。
 - （ 3 ） 丸善など主要書店でも販売する。
- 〔 4 〕 発行回数 3、6、9、12月号の年4回とする。
(1997年度より日本機械学会誌)
- 〔 5 〕 組 織 （ 1 ） メカライフ誌編集のため会誌編修部会に編修委員会を置く。
- （ 2 ） 編修委員長1名、幹事1名、委員15名以内、編集協力者は全国的に委嘱する。構成委員は会誌編修部会委員、学生会委員等の経験者であることが望ましい。なお、学生会員も若干名委員に加える。
- 〔 6 〕 校閲方針 （ 1 ） 校閲の方針は、メカライフへの掲載に値するか否かとし、誤記の指摘等のマイナ - チェンジにとどめる。
- （ 2 ） タイトル（表題）は、学生に魅力あるようなものにする。
(校閲委員のもとで検討する)
 - （ 3 ） 読みやすさを目的として、必要があれば字句の修正、書き直しや小見出しをつける。
 - （ 4 ） 校閲はメカライフ編修委員が行う。

1 . 執筆規定

本誌の記述に際しましては、以下の諸点をご理解の上、ご投稿願います。

- (1) 著作権 会誌に掲載された記事の著作権は原則として本会に帰属するものとする。
- (2) 使用言語 会誌の原稿は原則として日本語とする。
- (3) 単 位 会誌に用いる単位は、S I 単位を使用することが望ましい。
- (4) 原稿受付日 原稿受付日は、原稿が本会に到着した日とする。
- (5) 原稿の採否 原稿の採否は本会校閲基準に従い会誌編修部会長 (編修理事) が決定する。
- (6) 原稿の責任 会誌に掲載された記事の内容についての責任は、すべて著者が負うものとする。

2 . 原稿の作成要領

- (1) 専門外の会員や学生でも気楽に興味をもって読めるような内容、表現で記述してください。
- (2) 文章は本会慣用の口語体とします。特に欧文もしくは、カタカナ書きを必要とする部分以外は漢字まじりひらがな書きとしてください。漢字は常用漢字、かなは新仮名遣いにならってください。
- (3) 用語は、(a) 文部科学省学術用語集機械工学編 (増訂版)、および、(b) J I S 用語を準用願います。
- (4) 本文は読みやすくするため、数個の章立てをしてください。

- (5) 図(写真)および表は1枚ごとに別紙とし、本文原稿の右欄外に図 または表 と記して掲載箇所をご指定願います(図は原稿中にはり付けたり、掲載箇所を示すための空白をつくる必要はありません)。
- (6) 図(写真)、表には内容を的確に表す題目と若干の説明をつけてください。
- (7) 特殊な専門用語や略語は脚注でご説明ください。
- (8) 引用文献は原稿の末尾にまとめて記述してください。本文中で引用する場合は、引用する趣旨をはっきり理解させるようにおまとめください。
- (a) 引用文献の番号は通し番号とし、本文の引用箇所には右肩に小括弧を付して番号をご記入願います。
- (b) 一般に公表されていない文献、たとえば簡易印刷(コピーしたものなど)の委員会報告や社内報告、私信などは引用文献としてあげないことを原則としております。
- (c) 引用文献の記載方法はつぎの形式で記述してください。

雑誌の場合

著者名(連名者)、論文の表題、雑誌名、巻数 号数(発行年・西暦)、ペ - ジ .

(原則としてペ - ジ数は、始まりペ - ジと終わりペ - ジを記入してください。)

[例]

(1) 新宿太郎・信濃一郎, 新研究発表方法の実施について, 日本機械学会誌, 87-785 (1984), 400-406 .

(2) Keer ,L .M .and Ahrendt ,W .R ., Resonance Effects for a Crack Near a Free Surface, *Trans. ASME, J. Appl. Mech.*, 51-1 (1986), 65-70 .

(3) 新宿太郎, 新研究発表方法の実施について, 日本機械学会年次大会講演論文集, No.04-1 (2004-9), 1-3 .

書籍の場合

著〔編〕者名、書籍名、巻〔1巻のみの場合は不要〕、(発行年・西暦)、ペ - ジ、発行所 .

(原則としてペ - ジ数は、引用したペ - ジのみを記入してください。)

〔例〕

(1) 新宿太郎, 自動制御理論, (1979), 123, 丸善.

(2) Ahrendt, W. R. and Keer, L. M., *Automatic Feedback Control*,
(1984), 12, McGraw-Hill.

(9) お顔の写真(スナップで結構です)ならびにご略歴を掲載いたしたく存じますので同封の用紙に必要事項をご記入の上、原稿の提出時に同封していただければ幸いです。

(10) 記事中における会社名・製品名の表示について(校閲に際しての考え方)

(a) 宣伝となるような特定会社名、製品名の記載は原則として次のようにする。

会社名は A 社、B 社等とする。

製品名は一般化された名称とする(JIS 名称など)。

(b) 校閲委員の判断で、記事として特に有用と考えられる場合は、会社名・製品名を記載することができる。

例えば、

技術史的な記述の中で、会社名や製品名がないと記事そのものが意味を成さない場合。

ケーススタディ的な記事で、実例としては極めて特異な技術や製品を記述した場合。

(11) 原稿送付

原稿送付はプリントアウトしたもの(紙媒体)2部(正1・副1)と、電子媒体(FD、MO、CD-ROM等)をご提出ください。

メカライフ記事の項目別内容

〔メカライフの記事（1ページ約2,200字、図・表含む）
の主要項目別内容は下記の通りある。〕

掲 載 欄	内 容
ハイテクノロジー （特集記事）	機械工学、工業に関する先端技術・製品、プロジェクト等について学生向けにわかりやすく記述する。
歴史・技術史	技術や製品のアイデアや工夫を当時の背景等も含め発想・発展過程等を読み物風（やさしく）に記述する。
サ ロ ン	機械工学・工業に長年たずさわられた方の意見、感想、経験談を記述する。特に学生に興味をひく内容として簡潔に述べる。
対談・インタビュー -	技術者として幅の広い経験をお持ちの方に、これからの機械技術者のあるべき姿などについて述べてもらう。 インタビュー『メカライフな人々』
海外通信 留学生通信	海外に留学している（した）方からの研究所、研究室などの見聞記。
学習シリ - ズ	これから新しい専門分野を学びたい方のために、わかりやすく、かつ道案内書となるように記述する。 しくみシリーズ『知って納得！メカランド』
博物館シリ - ズ	全国各地の博物館の紹介記事。

学生のペ - ジ	
スペシャルレポ - ト	機械工学・工業に関連した技術、研究所等について学生が中心となり記事を作成（取材）し、その紹介・解説をする。 訪問記シリーズ
チャレンジ	実際に物を作ったり、それらを使って何かに挑戦している学生にその製品や成果について紹介をしてもらう。
キャンパスアイ	全国の高専、大学のサ - クル・クラブ、研究室の紹介や学内の出来事、特色あるカリキュラム等の紹介をする。

